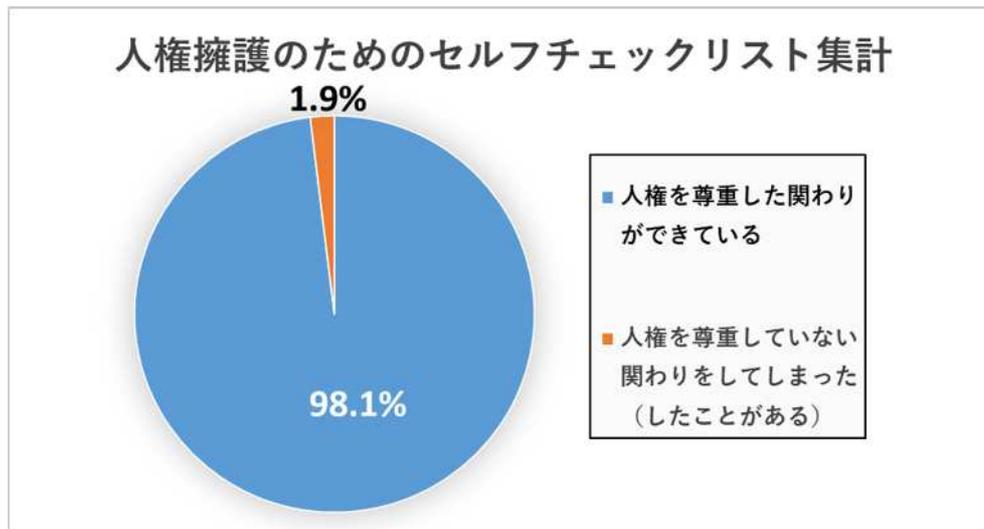


## 西保育所

人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）

全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.1%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.9%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

・子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、どうしても手が離せない場合には、「～が終わったら聞かね」などと伝え、そのままにせず、その後に声をかけるようにしています。また、余裕がなくなった時に出やすい言葉であることを意識し、職員間で声をかけながら助け合う姿勢を大切にしていけることを確認しました。

・自分からトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、日々の保育の中では、一人ひとりの子どもの排泄のタイミングをつかみ、必要に応じて見守りを行い、促すようにしています。その中で、プールや水遊びなど暑さ指数を見ながら、限られた時間で遊ぶ場合など、十分に遊べる時間を保障したい時に声をかけることもありますが、子どもの意思を尊重し、やりとりをしながら促していくことが大切ではないかと話し合いました。

・小食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、一人ひとりの食事量は担当が把握しており、様々な職員が入る為、伝え合うようにしています。その際、大盛り、普通盛り、少量など、抽象的な表現で伝えているので、職員により量の違いがあるのではないかと意見が出ました。引き続き、集団での良さを活かし、食に興味を持てるようなアプローチを考えながら、楽しい雰囲気の中で食事ができるよう、子どもたちとやりとりをしながら見守りや声掛けをしていくことを確認しました。